

すみれの会記録

- 1 日時：平成23年1月7日（金）18：00～20：00
- 2 会場：浦和コミュニティーセンター
- 3 内容

◆境野先生（上里町立神保原小学校）

「将来の夢に近づくために」～人を知り、人から学び、人として成長する～

（第6学年 総合的な学習の時間）

1学期は自らの「夢」について考えさせ、その夢の内容を調べ、教師が用意した「人」とふれ合わせる活動を行った。2学期は、教師が与え、指示した人とふれ合わせるのではなく、自ら夢に近づくために必要な人を、自己の力で見付けさせ、ふれ合わせる活動を計画し、実施した。

→1学期からの夢を変えた児童と変えない児童の2名を抽出し、変容を追った。その姿を基に、子どもたち自らが選んだ夢は、課題に応じて変わるものなのかどうか、ふれ合う人がそばにいないければ、夢を変えてしまうものなのかについて話し合った。

◆中村先生（さいたま市立与野西北小学校）

「あきのおもちゃ だいしゅうごう」（第1学年 生活科）

秋の自然を楽しみながら工夫してつくり出した遊びの楽しさや面白さを、年長児と一緒に味わえるようにすることができるようにした実践。

→幼稚園との打ち合わせの時間や、幼稚園の子にとっての学び、遊びに没頭している児童がどこまで年長児を意識して遊びを工夫しているのかについて意見を交換した。

◆若村（埼玉大学教育学部附属小学校）

「生きものとかかわり」（第2学年 生活科）

継続的に生きものとかかわり、自らの気付きと友達の気付きを比較し、関連付けながら交流することで、飼育を始める前の自分と今の自分を比較して、自分自身の成長に気付くことができるのか提案した実践。

→表現物の製作活動だけに力を入れるのではなく、子どもたちが作った虫かごなど、子どもたちなりの気付きが表されている物がある。そうした物を使って交流していくこともできるとよい、命に対する気付きをどのように扱っていくのかについて話し合った。

◆齋藤（埼玉大学教育学部附属小学校）

「どうぶつ だいすき」（第1学年 生活科）

飼育小屋のウサギ・カメ・アヒルの飼育活動で、友達や獣医師と伝え合い交流することによって気付きの質を高めることができるのか提案した実践。

→獣医師との交流の仕方、生活科における板書の在り方（言葉にして書きすぎない、分かったことなどに気付く板書）について意見を交換した。

最後に、教育報道出版社の梶浦さんから教員研修会の報告をいただき、子どもの姿を通して授業研究（研修）を行うことの必要性をお話しいただいた。また若手会長からは全体を通して、①本物とのふれ合い、②どうやって愛着をもたせるのか、③他者とかかわりどのように行っていくのか、④繰り返し活動することの大切さ、⑤効果的な振り返りの場を設定すること、について指導講評をいただいた。

（文責：若村 健一）